

「巨大災害から生命と国土を護る」

今月6日から連続シンポジウム開催

日本学術会議

日本学術会議が、連続シンポジウム「巨大災害から生命と国土を護る」24学会からの発信」を12月6日からスタートする。24学会が参加し、東日本大震災に対する反省と今後の災害対策の見直しに関して学会の壁を越えて議論を展開する。

6日の第1回のテーマは「今後考えるべきハザード(地震動、津波など)と規模は何か」。島崎邦

彦・元日本地震学会会長と今村文彦・前日本自然災害学会会長、大西隆・日本学術会議会長が基調講演。講演者と濱田政則・元土木学会会長、和田章・日本建築学会会長が、米田雅子・慶応大学特任教授をコーディネーターにパネルディスカッションを行う。

第2回は「大災害の発生を前提として国土政策をどう見直すか」で2012年1月18日に開く。いずれも六本木の日本学術会議講堂で午後2時から。

第3回は「減災社会をどう実現するか(仮題)」をテーマに2月に開催する予定。第4回目以降は「首都直下地震、東海地震などに、今日どう備えるか」などを検討している。

入場無料。参加を希望

する場合は、参加希望(第1回、第2回)を明記し、

所属・氏名・所属学会名とともにメールで申し込む。メールアドレスは

ympo.ndm@gmail.com